

独立行政法人農林漁業信用基金 事業年度評価の全体評価シート

中期計画の項目	評定	理由・指摘事項等
第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A	事業費や人件費など、経費支出削減に取り組んでいる点は評価できる。 なお、研修の効果や検討会の成果等、数値目標がない項目について更なる自発的取組みを期待する。
第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A	様々な取組みが導入されており、サービスの質の向上が図られていることは評価できる。職員全員が高いモラルを維持し、利用者サービス向上に向けた自発的な取組みを期待する。
第3 財務内容の改善に関する事項	A	料率の見直しやモラルハザード対策への取組みは評価できる。 引き続き、事故率と料率との乖離には慎重に検討することが望まれ、継続的なフォローアップを期待する。
第4 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画	B	有価証券売却損の計上が事業に大きな影響を与えてはならず、有価証券の運用や処分等についてはより適切な対応を期待する。
第5 短期借入金の限度額	—	—
第6 剰余金の使途	—	—
第7 その他主務省令で定める業務運営に関する事項	A	一定の評価ができるが、相互交流など更なる努力を期待したい。 他方、震災発生以降の対応については、今後の課題などを整理しておいたほうがよい。

全体評価

事業規模や人件費等の量的な指標に関しては概ね目標を達成しているものと評価でき、中期目標の達成に向け、自発的な取組みを強化することが期待される。

他方、大口保険引受案件の事前協議で得られた情報や様々なリスクに関する情報の活用方法等については、一層の努力が必要となるほか、今後の経済情勢を勘案すれば、さらに慎重な計画が求められる。

長期的に安定した制度の運営に向けて果敢な取組みを期待するとともに、より一層の経営努力によって社会経済的な負託に応えてもらいたい。